

意欲ってどこから生まれるの

子どもの意欲を引き出す大人のかかわり方

小野 學

東京学芸大学 児童・生徒連携支援センター

相談活動（会話）の目的

2つの目的

1. 相手に安心感を与える

（児童の不適応状態を伝える際は、慎重に・・・）

- ① 理屈で説明しても納得してもらえない
- ② 相手の気持ちへの寄り添い
- ③ 迷いにつき合う（アンビバレンスな気持ちを大切にする）

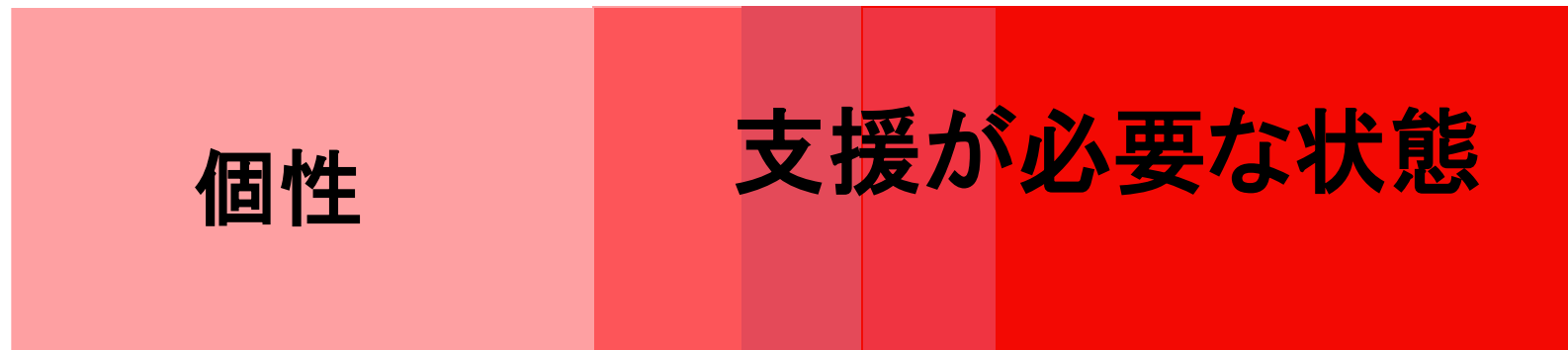
2. 問題解決に取り組む（ニーズの明確化と共有化　そして支援へ）

- ① 集団生活への適応（移動　学習参加　生活指導　対人交流）
- ② 学習の躓きへの支援（聞く　話す　読む　書く　計算する）
- ③ 家庭生活への支援（家族関係の調整・生活）

相談の内容（T大学相談室）

年齢層 (歳)	相談内容
0～5	言葉の遅れ・視線が合わない・不登校（園）・不器用 対人交流・多動性・幼稚園で集団行動がとれない・暴力 配偶者の対応改善・育てる自信がない
6～9	言葉の使用上の偏りや歪み・集団行動がとれない・多動・不登校暴力・暴言・学習についていけない・自殺念慮・配偶者の対応の改善・虚言、いじめ 担任の対応に納得できない・指導方法を改善したい（教師） 育てる自信がない
10～12	学習についていけない・学校の指導方法が納得できない・担任や学校の無理解・いじめ・暴力・暴言・学習の遅れ・配偶者の対応改善・自殺念慮・進路相談・受け持った子どもの援助交際（教師）
13～15	学校の指導方法に納得できない・対人交流・非行・鬱・精神疾患 不安が強い・進路相談・不登校・配偶者の対応改善
16～18	不登校・進路相談・気持ちの整理・パニック障害・精神疾患 支援してくれる社会資源を知りたい・学校で浮いている（大学生）
30～	鬱気味・幻視・変えられない信念・配偶者の相談・子どもの相談 職場でうまくいかない・精神疾患

学校で困り感を持つ児童の拡大



子どもの行動は、大きく環境に左右される
行動は環境(かかわり手)との相互作用

学習や生活上の滞り

不適切な対応・きっかけ

スロウラーナー

発達障がい

精神疾患

外国籍・文化

原因不明

虐待
独特な養育

心理的葛藤

保護者の疾患や障害

保護者の養育困難

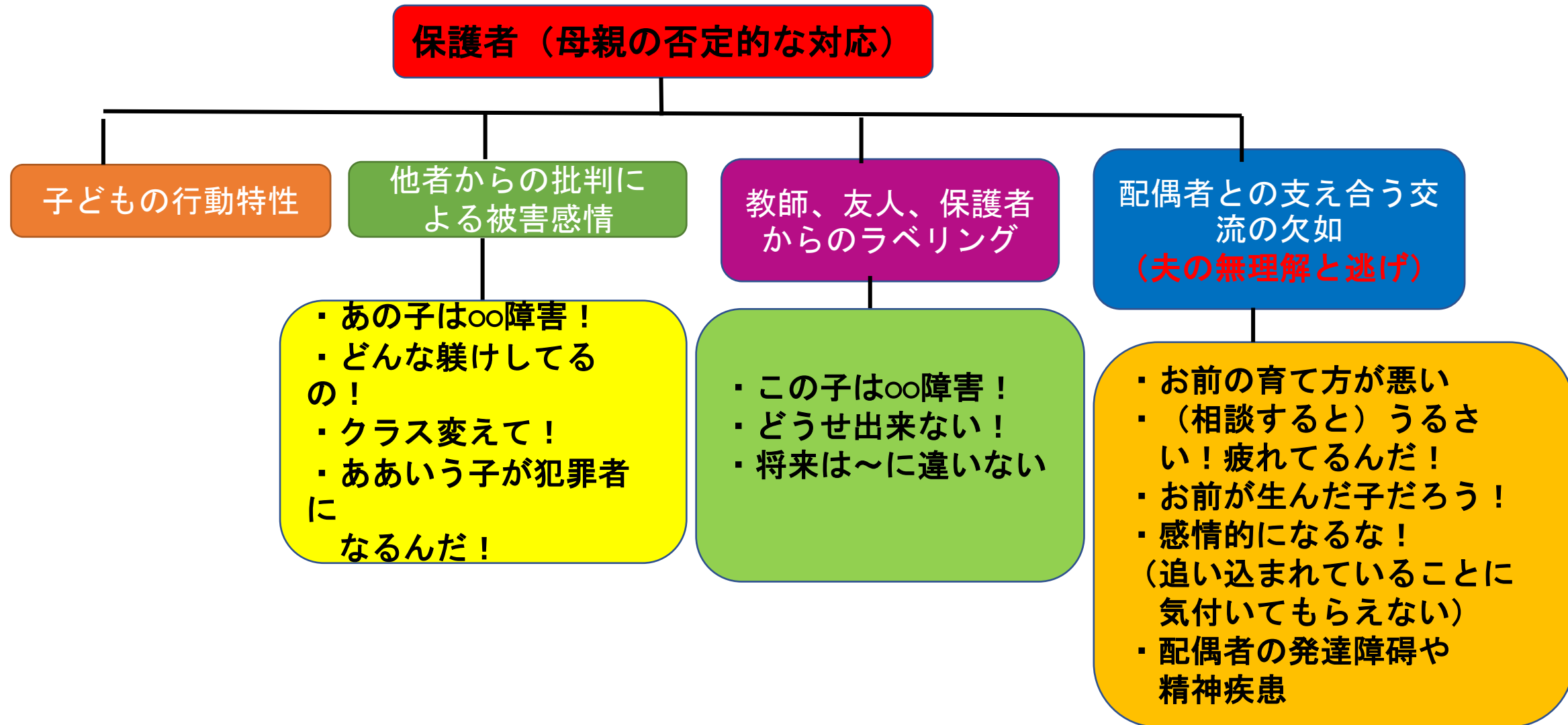
偏った養育態度 経済的困窮 多子 不安定な就労 片親等 孤立

コン と言えば リン

伝承という文化が消えてきている

保護者が否定的に対応する理由としての考察

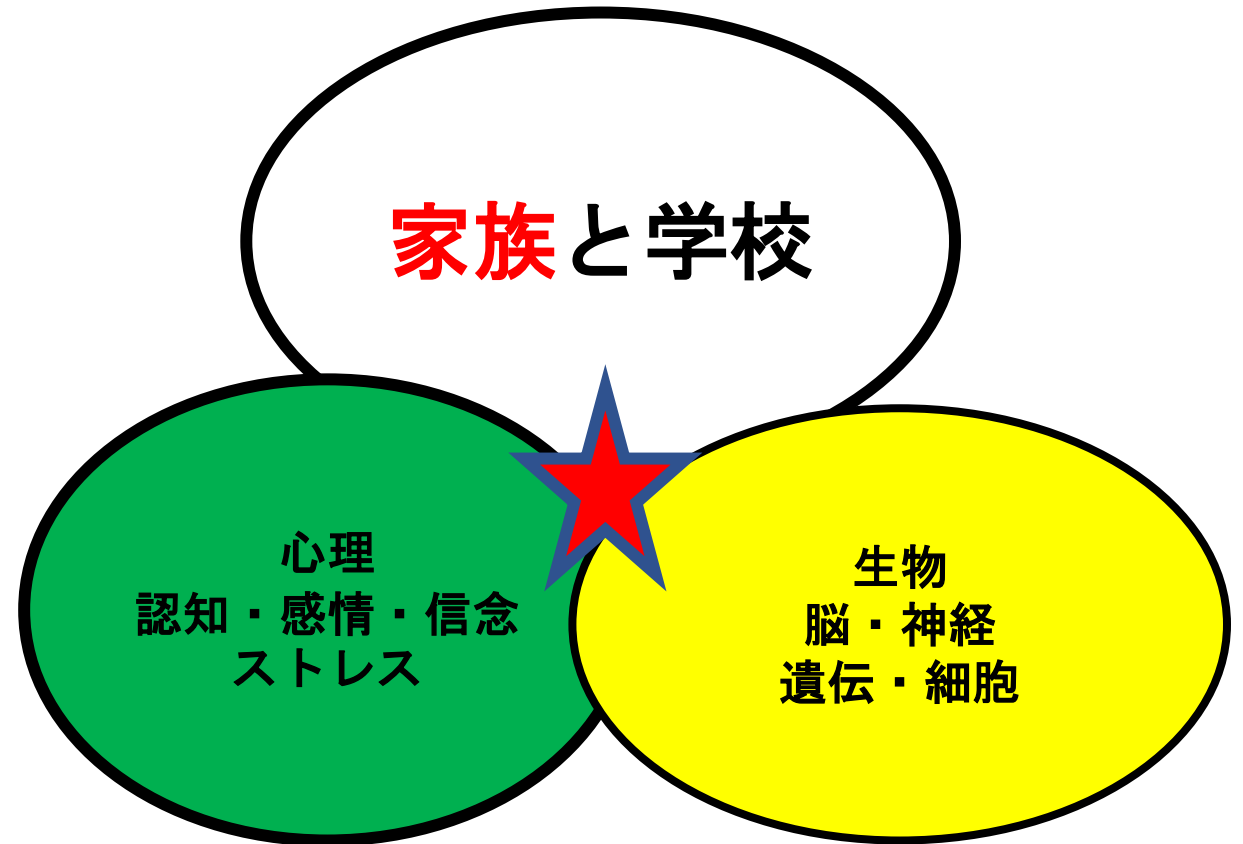
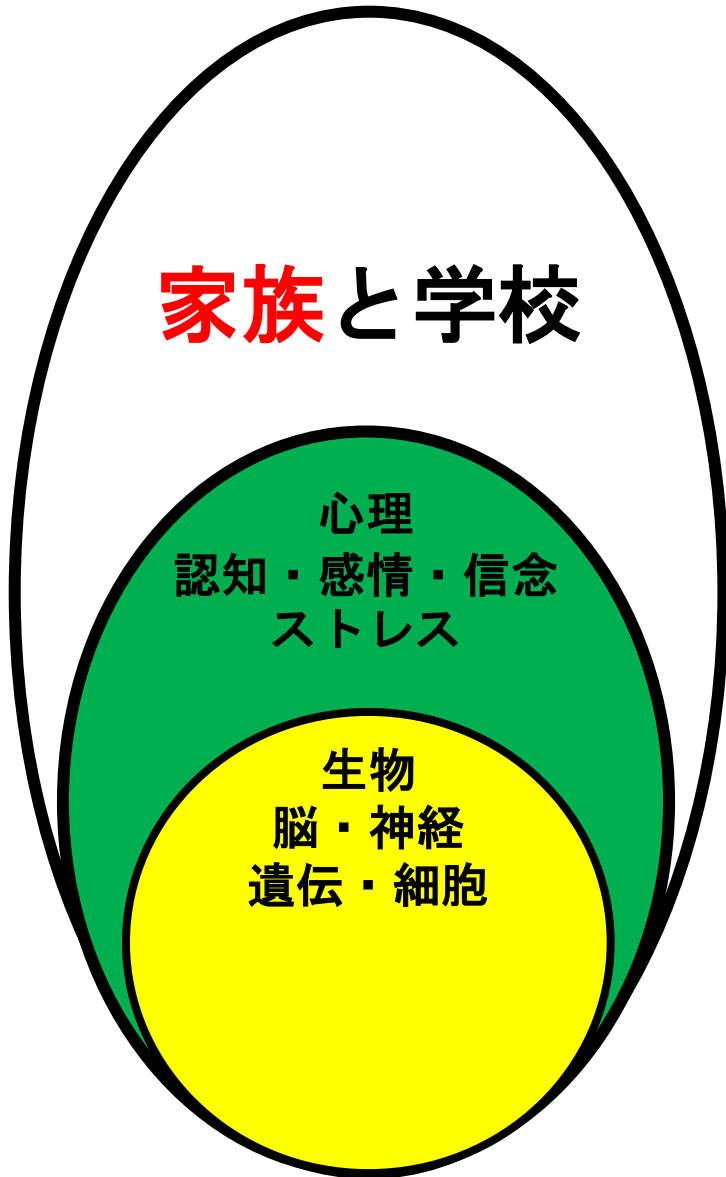
常に誰かに責められているという感情を持つ保護者も多い



行動は「生物—心理—社会(家庭)」で考える

同心円の「生物・心理・社会モデル」

子どもの状態を反映する生物・心理・社会モデル



人の行動を左右する愛着の力

合理的な子育てを目指す

- ・一人の母親が一人の子を育てるのは効率が悪い
- ・母親の社会参加が妨げられる



親に依存しない
自立した子どもが育つはずだ!

その子どもたちが大人になると

重大な事態が引き起こされていることが判明した

- ・親密な対人関係を築けない
- ・対人交流の不全（人を避ける・不安定な交流：親密⇔拒否）ほとんどの人に見られた

⇒その子どもたち（二世代目）は無気力、周囲の状況に無関心な子どもがほとんどだった！

愛着

人と人をつなぐきずな・人格の基礎

愛着が形成されていないと

- ・ 行動の不全が激しくなる : 対人交流・非行・薬物アルコール依存等
- ・ 親に認められたいという気持ちを引きずる
「親の顔色を気にする」「取り入ろうとする」「強く反発する」

愛着の大切さを見直す

(子どもの問題行動の背景には保護者との関係の問題がある)

愛着

特別な対象との間で結ばれた絆 一度形成された愛着は消えにくい

愛着に問題を抱えている子供にみられる特徴

- ① 攻撃的言動や否定的な言葉遣いが多い
- ② 教師に対して批判的な言動をとる
- ③ 暴力や暴言がみられる (自傷行為を含む)
- ④ 対人関係が不安定である (密着⇔離反が激しい)
- ⑤ 逆説的な反応
- ⑥ 大人の顔色をうかがう
- ⑦ 黙して語らないこともある

子どもたちが、行動 (心) の問題を示している時はしばしば、家庭の問題を映し出していることが多い

愛着の形 型

① 安定型

② 回避型

③ 抵抗・両価生型

④ 混乱型

愛着は時として器質的要因と同等かそれ以上の影響を発達に及ぼす

意欲はどうやって創り出されるか (案)

スマイルビーム
ラブラブワード
ハグハグアクション

愛情をもって接する

共有関係

活動・遊び

あれ? あった! なんだ! おおっ!
こうしてやる! こうやってみよう!
なるほど! ああやればいいんだ。
おしえてもらおう。あいつとやろう!

ワクワク
やってみたい!

遊びには失敗がありません
時間の制約もない

言葉の獲得

情動 ↔ 認知 ↔ 体

体の状態に沿った運動

規則正しい生活

安全な環境・安定した人間関係

**やり取りの成立
コミュニケーション**

心の発達を支える愛着の力

愛着：人と人を結ぶきずなを結ぶ能力

人格の土台

なつき行動の活性化

社会的な行動へ引き寄せていく

親密な気持ち
の交流
相互の交流



一緒にやってみようかな

マネしてみよう

すごいね
こうだね
よいしょ
よいしょ



安全・安心の確保

情動の共有

精神発達のプロセス

歩行の獲得

- ・ なんだろ？
- ・ こうなるのかな？
- ・ やってみよう？
- ・ こうしてみよう～



ママやパパがいてくれるから
安心だ

次から次へと新しい世界を獲得
していく

ママやパパと一緒にいろいろな
ことを調べる

物や事象をともに確認しながら
信頼関係を深める

- ・ またやってみよう！
- ・ 今度はこれをやってみよう！

安全・安心の確保

情動の共有

愛着の絆

意欲も持って生きるための土台

0か月

3か月

6か月

12か月

首がすわる

いろいろなものを掴む

移動して調べる

探索活動の開始 → 大人・事物

養育者へのかかわりの活発化・養育者との関係が深くなる

(興味関心の共有・行為の共有・情動の共有) → 加速度的に探索能力が高まり効率よく活動する

乳児のかかわりを社会的なかかわりへ向ける

社会的な相互作用

愛着の形成

関係の発達・認知発達・言語行動の発達の基礎となる

精神発達を支える →

「なんだこりゃ？」 「あった！」 「ママ見ててね！」 が **意欲を育む**

人への観察が活発になる

自分の力で周囲を調べる「なんだこりゃ」
(養育者・他者・事物・動物等・・・)

「これは～だね」
「すごいね！」
「うまかったね」

「ママ！みててね！」 「やった！」
「ほら！」 「びっくりした！」
「失敗！失敗！」
「再チャレンジだ！」 「おっ～！」

「すごーい！」 「おみごと！」
「どんまい！」
「こうするのはどう？」 「そのやり方もいい
ね」

安全・安心の確保 情動の共有

養育者の子どもに対する深い関心

体を分けた分身...身体的なつながり

やってあげたい！
失敗しないように！

胎生期から深いつながり



子どもが関心をむけている世界への関わりに養育者も(ひかえめに)かかわることで二人の間に共同注視が生まれてくる過不足なく対応する

全ての行動に意味がある

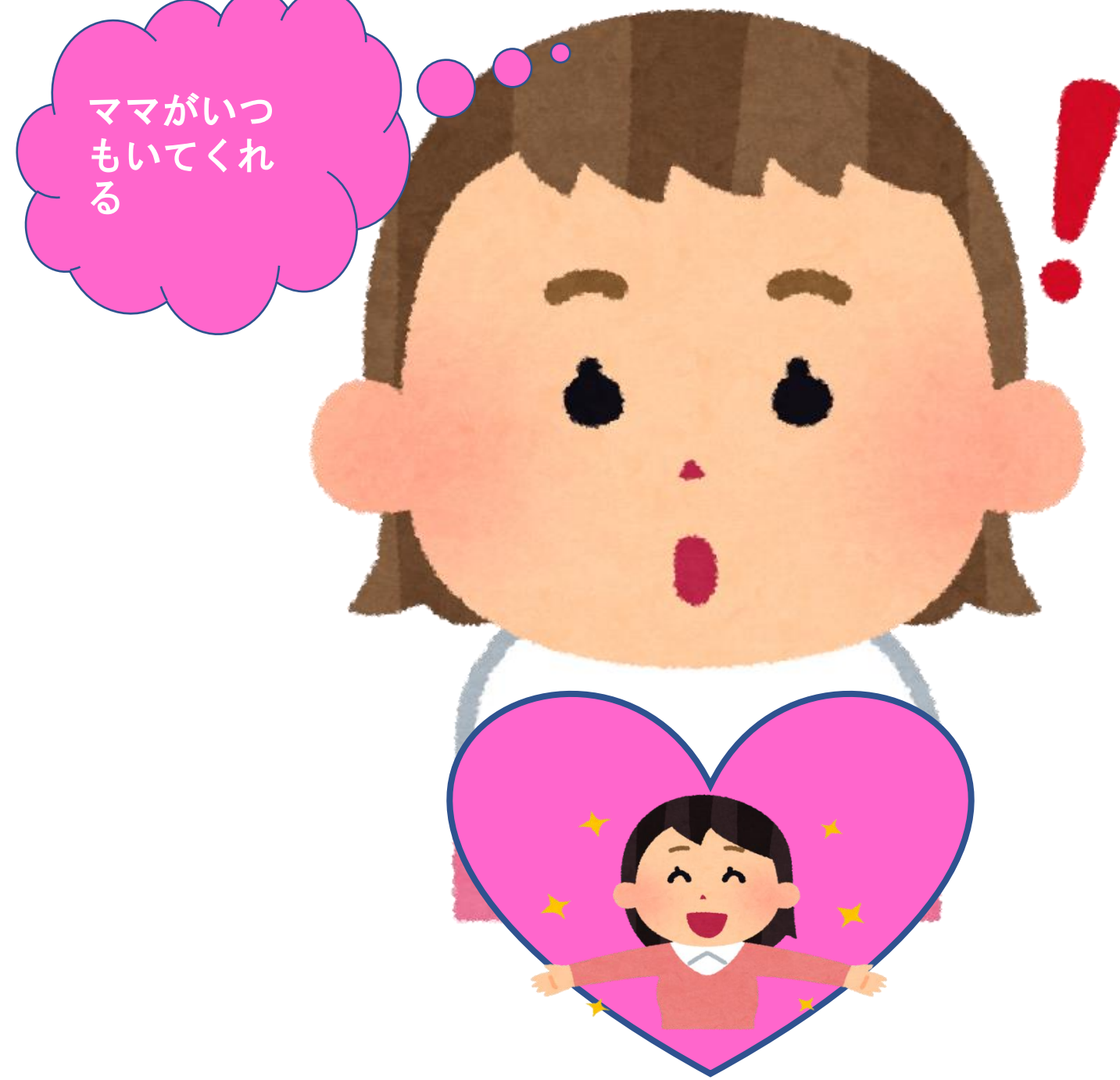
「（わが子の）泣き」...訴え・気持ちの表れととらえて対応
身体保護のための大人の基本的な対応（不快の除去）
➡基本的な信頼がつけられる（守られていいんだ！）

不快を取り除いてくれる

「不快の除去」➡能動的な働きに変化（「やってね」）
身体保護のための大人の基本的な対応
➡基本的な信頼がつけられる（守られていいんだ！）

感覚の分化・言葉の獲得が促されていく

空腹を満たす・暑さや寒さを調整する・身体を清潔にする
プラス「微笑み返し」「ほっぺに(*'ε`*)チュチュ」



ママがいつ
もいてくれ
る

「安全の基地」

子どもとの相互の交流によって生まれた愛着の絆が子どもの心の中
に定着していく。

「安全の基地」の形成

「安全の基地」が形成されると主体的に活動する力が高まりまる

⇒ 「意欲的な行動」

躰（しつけ）をする

躰

社会的なルールや約束を身に着ける

躰の担い手は養育者

養育者はともに育ちともに愛着を形成してきた相手

だからこそ子どもは自分ごととしてルールや約束を学べる
（養育者の行動をお手本として）主体的に約束を守る

愛着の形成が
みられないと

思いどおりにならない
強圧的な指示
無理強い

虐待の扉が
開かれる

意欲をなくした子どもたち

自分をコントロールできない

持続力に欠ける

暴言や暴力

衝動を抑えられない

ルールを守れない



どうせ俺なんか・・・
やっても叱られるだけだ！
今度も失敗するに違いない



「子どもを操作するために言葉を使う」ことは
子どもの主体性を削ぐことを忘れてはいけない

「～させる」「～をする力をつける」といった訓練型の指導に帰結（解消）していいのかという疑問

- 身近な人と一緒に子供と活動して「楽しい」「面白い」という感情を共有しなければ人との**安定した関係**は生まれない。
- 身近な人との**安定した関係が形成**できなければ、他者へのかかわりや、他者への信頼、自身は生まれるはずがない。
- 身近な人との**安定した関係の中での経験（学習）**の中で社会のルールを身につけ、対人交流を学び、主体的に様々な課題を解決できるようになる。

安定した関係とは

①安心できる対人交流を構築する

説得するのではなく よく聞くこと（トレーニングが必要）

安全感を脅かさないこと（態度やしぐさ）

子どもの主導感を脅かさない

（基本的な生活は保障してあとは手綱を手放す）

➡応答性を高める

②自己有用感（俺っていいかも）を育てる

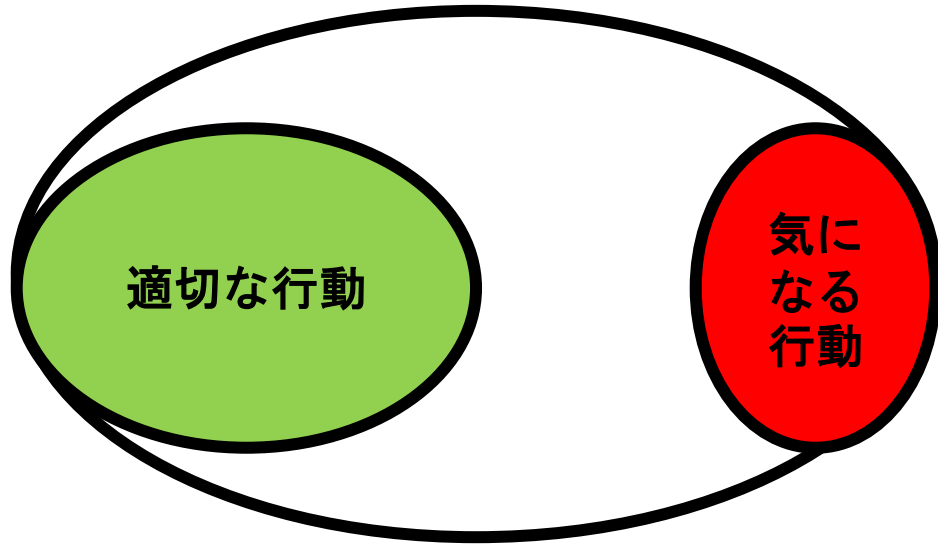
関心を共有する 肯定的に対応する

➡まどろっこしいが自分で「～したい」と答えを出してくる。

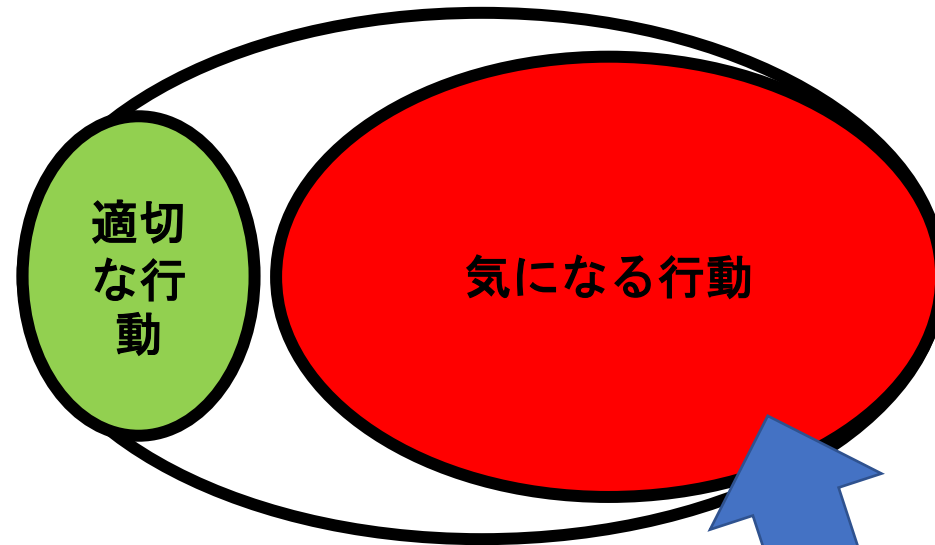
自分で生き方を見つけてくる。

先回りしない（親としては苦しいけど）

客観的に測定した行動

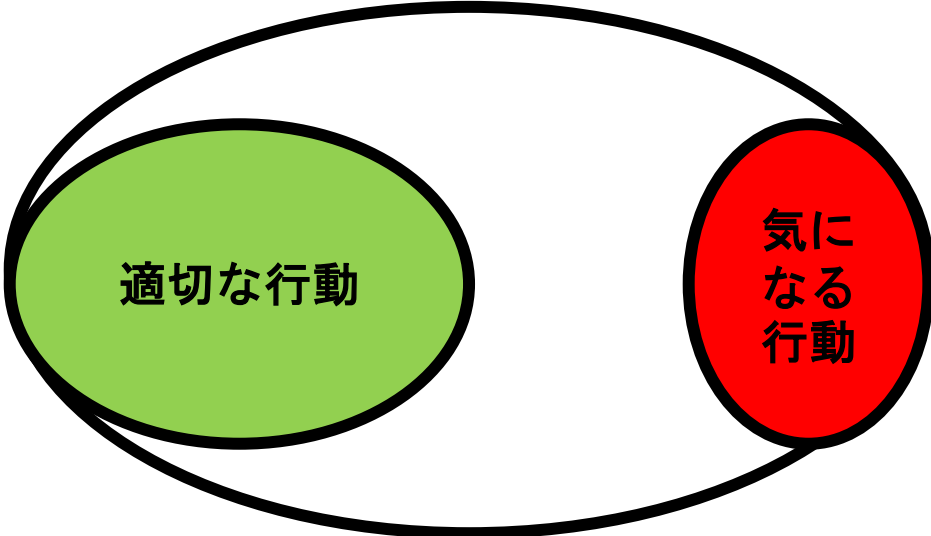


大人や友人の認識

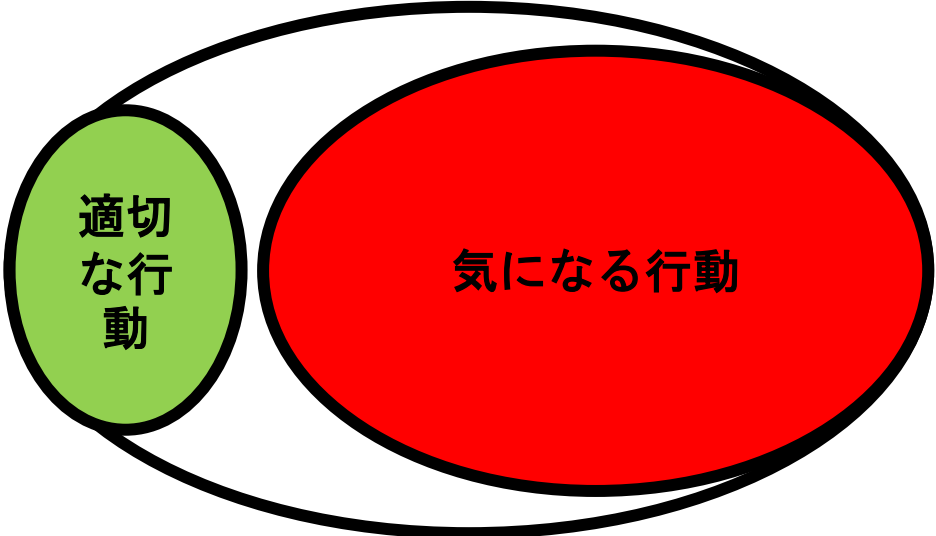


ここにばかり目が行きがち

客観的に測定した行動

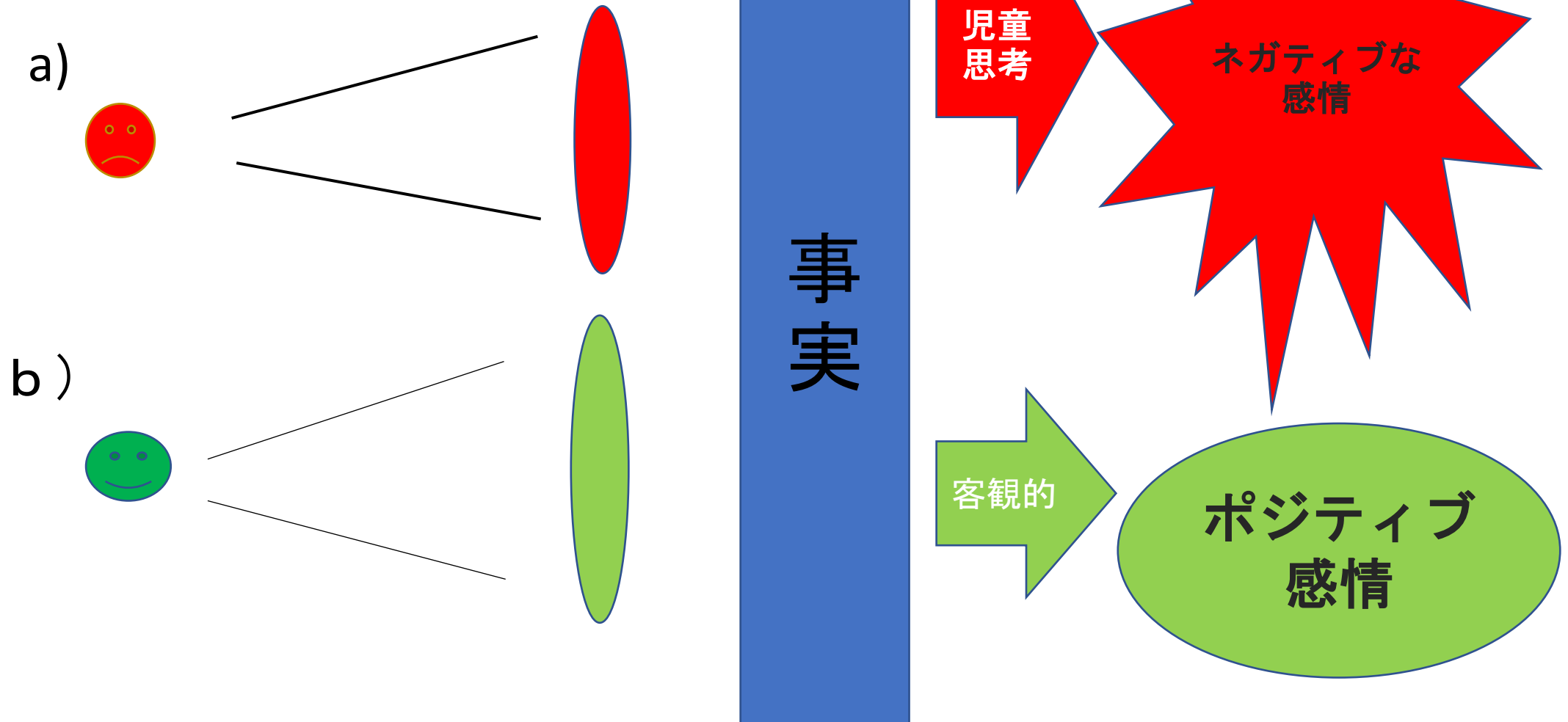


教師（家族の認識）



事態を把握する難しさ

フィルターの変化

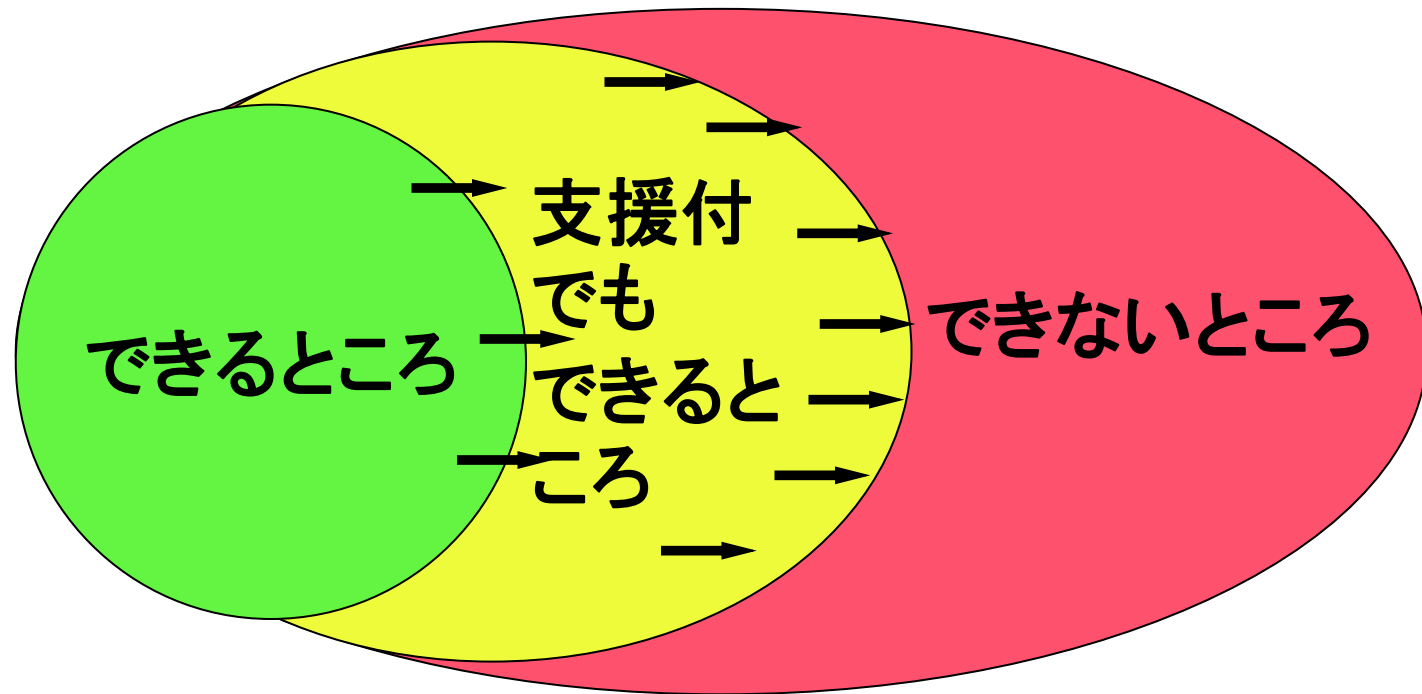


支援の基本

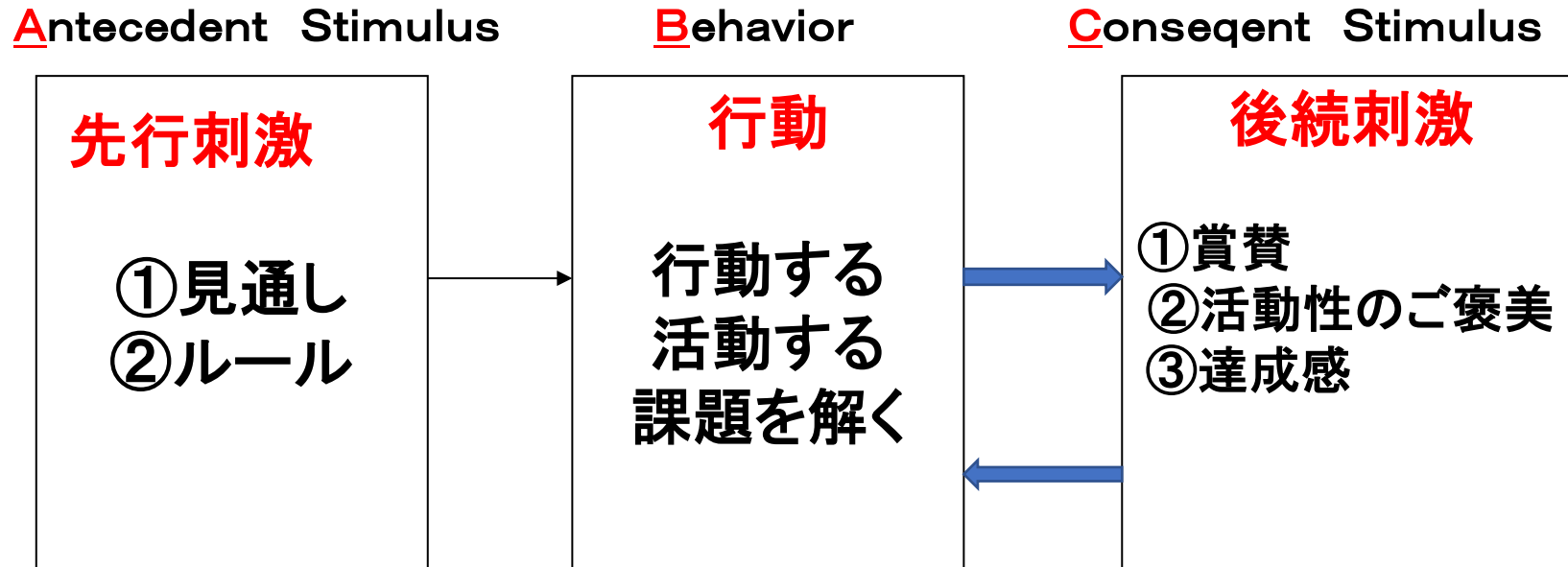
問題行動が起きている
「適切な行動が少ない状態」

不適切行動を減らすのではなく、

適切な行動を増やしていく



行動の原因を考える基本 行動は環境との相互作用



子どもの力を引き出せる「先行刺激」のもとで、適切な行動を引き出したらフィードバック・賞賛など心地よい「後続刺激」を提示します。

A B Cの関係を安定させること。

行動の原因は行動の後にあります。

ABCで見ることは行動の「機能」に着目すること

機能的に行動を見ることとは 解決につながります。

➡行動の機能（目的・意図・役割）に着目します

➡なんのためのその行動をやっているのか

※子どもは行動を意志的にやっているだけでなく
刺激➡反応が間髪に起きることもあります

課題 次のほめ言葉の誤りを指摘しなさい

【課題 1】

やればできるじゃない！

【課題 2】

あら！95点ね。もう少しで100点ね！

【課題 3】

今日は、がんばっているのね！

行動の原因は行動の後にあり！
（おためし行動）

小1のさとるくんの行動分析

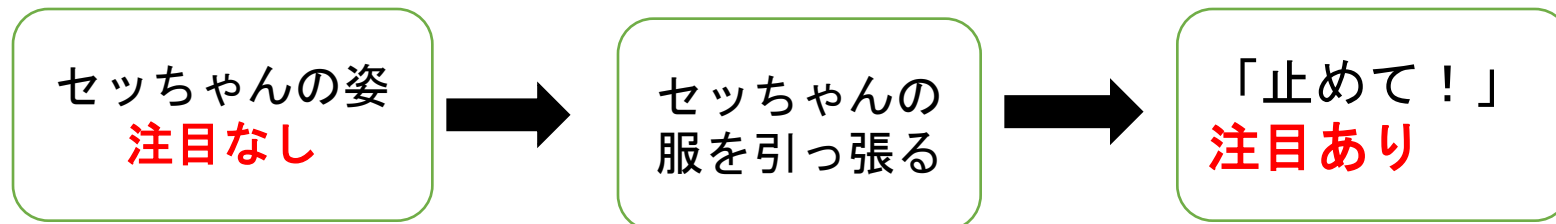
隣の席のセツちゃんの服を引っ張る

(1)セツちゃんの注目を得る

先行刺激

行動

後続刺激

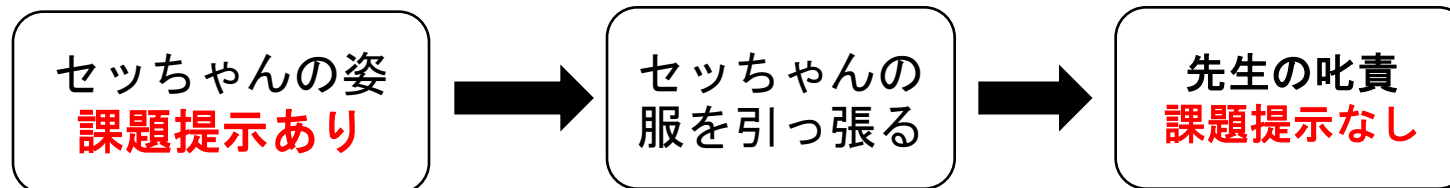


(2)課題回避行動

先行刺激

行動

後続刺激

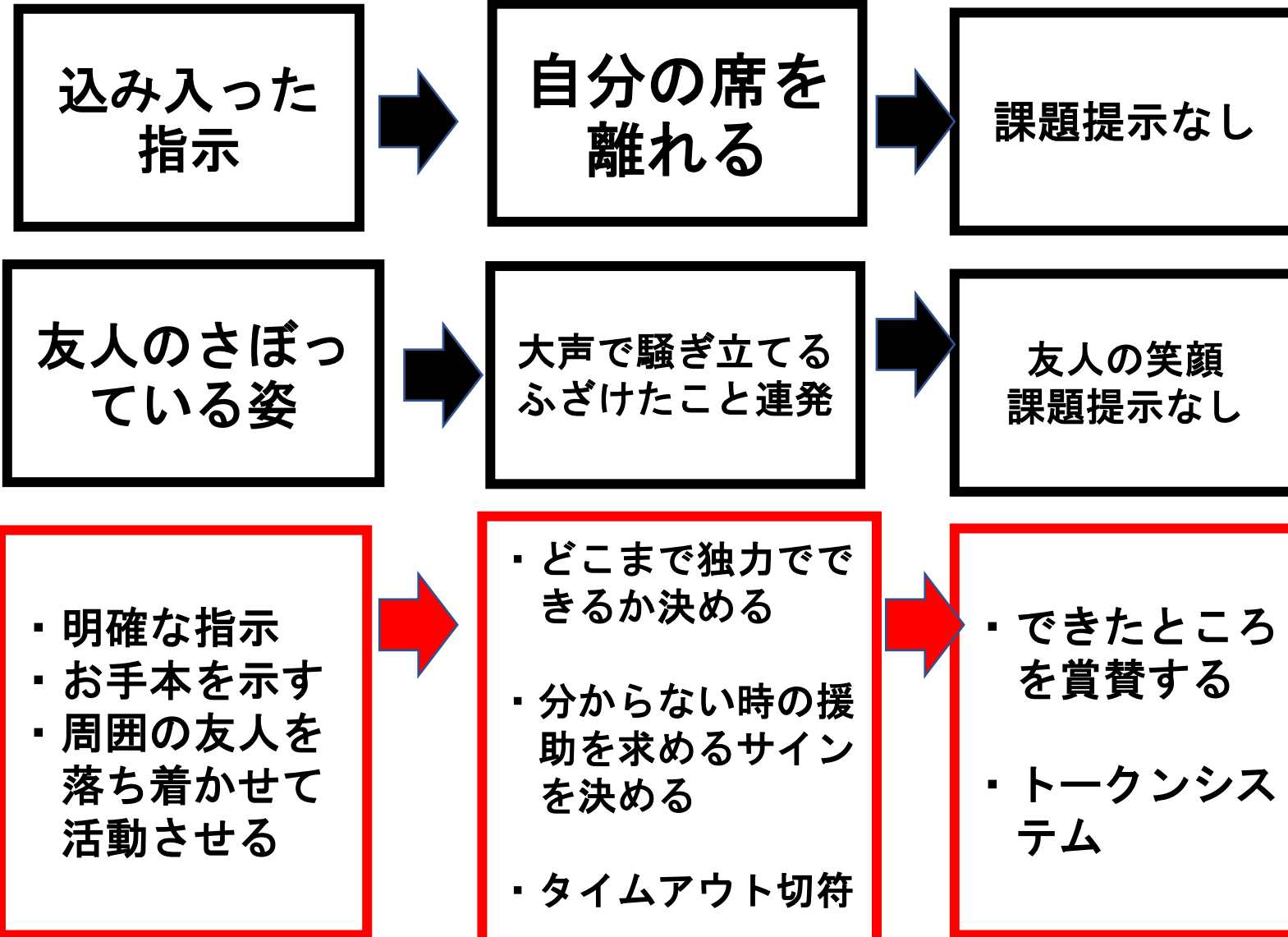


子どもの気になる行動を分析する

A 先行刺激

B 行動

C: 後続刺激



行動（会話）の機能（おためし行動）

機能	内容	ことば
注目	注意獲得	みて、かまって
要求	事物や活動要求	欲しい！やりたい
逃避	いやなことから逃亡	いや！できない
感覚	感覚刺激を得る・動く	遊んで・やめて
防衛	不安から自分を守る	怖い・心配 変わるの嫌だ

代替行動を形成する

- ・ 問題行動を社会的に容認された行動に置き換えて賞賛する。

① 注目の機能を持つと評価

- ➡ 普段できているところを賞賛する。声掛けを増やす。
用事を頼む等。

② 要求の機能を持つと評価

- ➡ 個別に要求を聞く。できるところできないところを説明する。
挙手、手紙等要求ルールを教える。

③ 逃避の機能を持つと評価

- ➡ 逃避する場所を決める。優しい課題を用意する。
個別に学習する機会を保証する。

④ 防衛の機能を持つと評価

- ➡ クールダウン。一緒に活動する。励ます。見通しを持たせる。
おまじない行動

子どもたちにみられるお試し行動

【幼児期～学齡前期】（巻き込める相手か探りを入れてくる）

- ・ 髪を引っ張る
- ・ かまってサイン
- ・ ものを散らかす
- ・ 大人が忙しい時にお漏らしをする
- ・ 泣く
- ・ まつわりついて自分のペースに持ち込む
- ・ 大げさな言い方

【思春期以降】

- ・ 言葉巧みに大人を揺さぶる（脚色した報告）

「信じてないんだね！」 「どうなってもいいんだ！」

「〇〇は許されるなんてずるい！」 「〇〇はひいきしている！」

「～の方がかわいいんだ！」

おためし行動が多い子の保護者タイプ

保護者のタイプ	子どもの行動傾向
①感情的に叱るタイプ 学校や専門機関に対してのクレームが多い	<ul style="list-style-type: none">・保護者の前では大人しい。・保護者がいると取り繕う。・保護者の気を引くために虚言（大げさな言い方）が多くなる。
②機械的な対応	<ul style="list-style-type: none">・賞賛や励ましを受けた経験が少なく行動修正が難しいことが多い。・表情が少ない・対人交流を築きにくい
③動揺しやすい	<ul style="list-style-type: none">・からかいのターゲットになりやすい・親をコントロールしようとする
④要求にこたえる。召使のようにふるまう	<ul style="list-style-type: none">・親をコントロールしようとする・行動がエスカレートする

海のように山のように、動じない、揺るがない・・・

暴言は口先の暴走（何も考えていない！）

だから・・・

暴言に対する対応

反論・説諭→興奮をあおる機能がある

傾聴・受容→共感できる？

暴言は意味のない言葉です！中身はない！

一言いって「ハイ！それまでよ！」

【対応】

- ・ 無視
- ・ 無視＋含み
- ・ 肯定的な言葉に変換して＋その場を離れる

どう対応しますか？

【課題 1】

くそばばあ、死ね！

【課題 2】

学校で〇〇にいじめられたよ！

【課題 3】

～先生はAばかりひいきしてるんだ！

ほめてばかりいても・・・（叱るを考える）



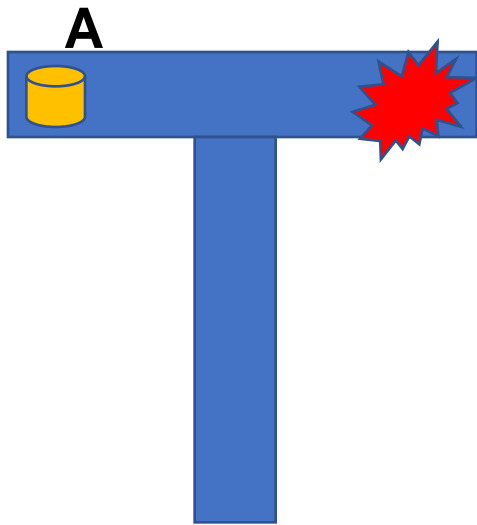
本当に叱らなければならないことなのか考える。ほかの対応方法はないのかなあ？
対象児は⇒「イライラ感」「不安感」「緊張感」「落ち込み感」が増加します。

「怒る」ことで増加する行動⇒不適切行動は繰り返されることが多くなります。

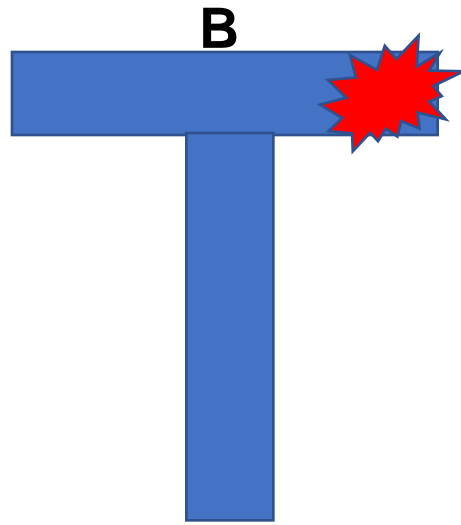
「叱る」テクニック ⇒「がんばれよ」で終わらせる工夫が大切。

- ①行動を叱る
(人格を否定しない。意欲を削がない。)
- ②短く明確に叱る(今日は○個叱るよ)

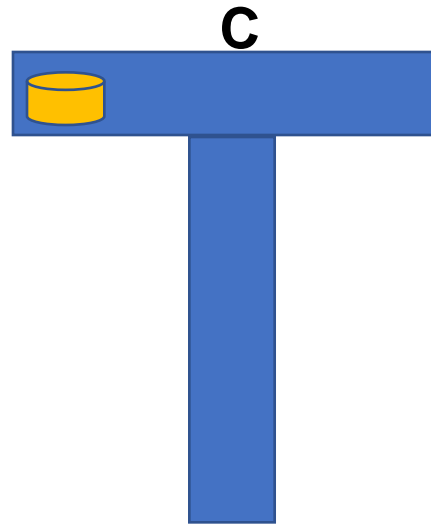
考えてみましょう。  は どうなったでしょう？



称賛と叱責



叱責のみ



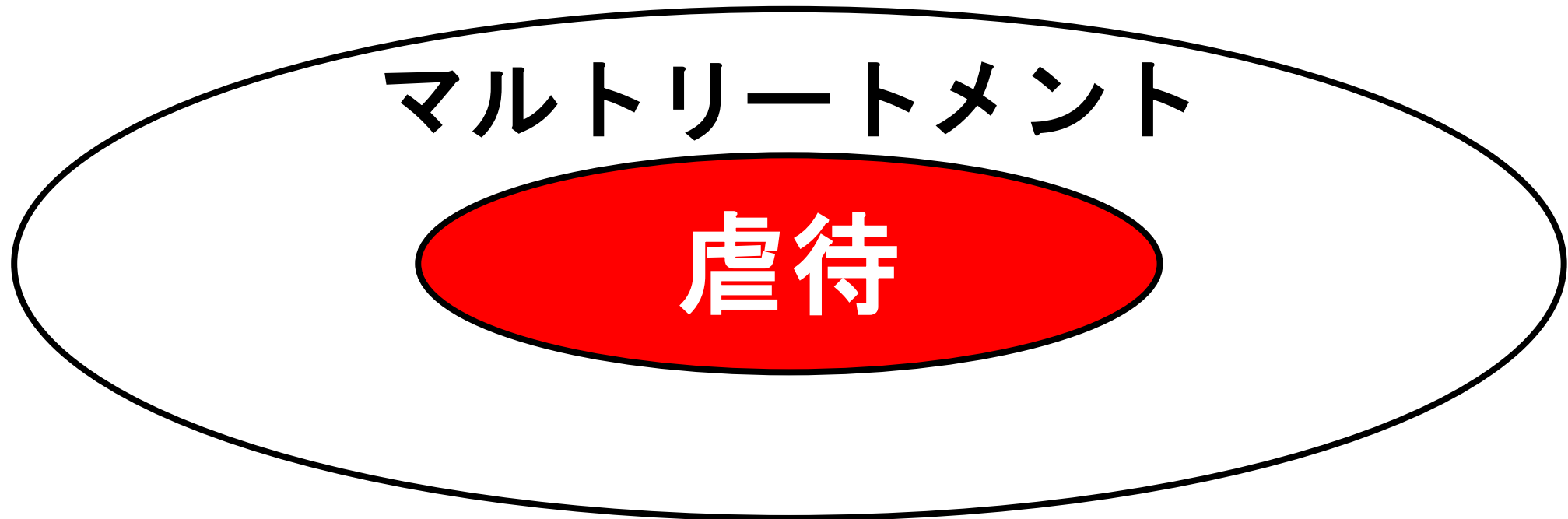
称賛のみ

マルチリートメントのおそれ

1. 積極性が失われてしまう。何もしなくなる
2. 一瞬は効果があるが効果は持続しない
3. ネガティブな情緒反応を引き起こす
4. 罰的な対応がエスカレートしやすい (ABUSE)
5. 対象児は力関係次第で他者に同じ対応をする
6. 何も新しいことを教えたことにならない

マル・トリートメント

弱者である子どもへの不適切なかかわり
虐待 (Abuse) 広い概念



マルチリートメントは繰り返される

ミラー・ニューロンの働き

受動体験と能動体験は表裏一体

不適切な養育 攻撃的なゲーム

見たことや聞いたことは繰り返される！？

自分の価値観だけで評価するのは危険です。 見方を変えれば・・・（リ・フレーミング）

落ち着かないやつだ！ ➡ 「活発な子だね！」

集中力が無い！ ➡ 「好奇心が旺盛な子だ！」

いい加減な奴だ！ ➡ 「小さいところにこだわらない！」

反抗的な態度をとる ➡ 「自立心が強いね！」

「信念を持っている！」

しつこいよ！ ➡ 「粘り強い」「諦めないね」

- ① 支援者側の感情が穏やかになります。
- ② 子どもと対立しなくなります。
- ③ 子どもの可能性が広がります。

練習してみましょう！

苛立ちを誘発する見かた	リ・フレーミング
だらしのないやつ ！	
負けずぎらいだね！	
反抗的な奴だ！	
しつこい！	
あきらめやすい！	

**子どもの問題の背景には
家庭状況が強く反映している**

愛着を見直す必要

事例：俺の稼いだ金だ！俺にレシートを見せろ！

対象児：小学校3年生（男）（療育経験なし）

主訴：自殺念慮

「さようなら」と言って赤信号の交差点に飛び出す
ホームから線路に飛び降りる

父親：一流電気メーカーのエンジニア（T大 大学院卒）

母親：専業主婦（元金融機関勤務）

父親はComができない。妻をさげすむ口調。常に指示的、命令口調。帰宅後は一日の買い物レシート提出を妻に義務付ける（海外出張中も）。買い物するときは、見積書を妻に提出させる。夕食後は自室に閉じこもることが多い。休日は趣味に没頭する。子どもが騒がしいと怒鳴り散らし、暴力をふるう。自室の壁を叩き大声を出すこともある。子どものテストの点数で外出制限をする。

事例 良い大学を出なければ不幸になる！

対象児 私立小学校5年 (男) (療育経験なし)

主訴 引きこもり 無気力 学校で激しい暴力をふるう

父親 : 自動車関連メーカー勤務 (K大 大学院卒)

母親 : 専業主婦 (父と大学の同窓生)

3年生後半より不登校気味 (登校途中で引き返すことも多い。父親出勤後に帰宅する)。自室に閉じこもること多くゲームに熱中する。3年生時より進学をめざし、塾通いをする。

両親は、塾通いのほかに家庭教師をつけて学習を頑張らせる。両親は学歴にこだわり、多くの有名人とも交友があることをカウンセラーに自慢する。

両親は面接中は「なんでもできる」といった万能感をにおわせる発言が多かった。有名大学卒業しなければ一人前ではないと主張する。

家庭では2時間以上、通信教育の教材もやらせている。学校にいけないのは「女性教師が甘やかしたからだ！」という主張を崩さない。

事例 私の話を聞いて！

対象時：私立中学1年 （女） （非行歴なし）

主訴：援助交際 万引き

父親：医師

母親：医師

学業成績は優秀。物静かな性格だが・・・。

小6から援助交際。塾に行くといっってはネットで知り合った複数の男性と交渉を重ねていた。

盛り場で補導され事態が発覚する。

対象時は、家庭は「命令ゲームの中」「誰も話を聞いてくれない」

「おじさんたちはっても優しくかった」と述べている。

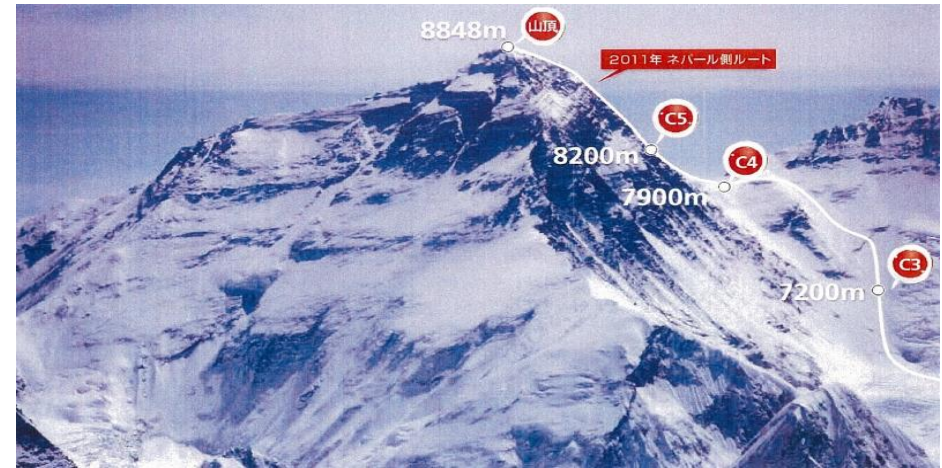
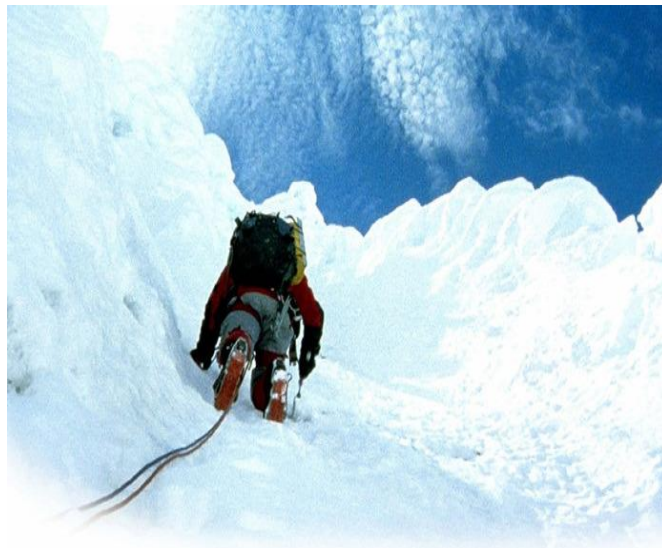
両親は、事実を警察から知らされて対象時を殴りつける。

両親は何不自由なく育ててきたのに・・・と落胆。

「誰も話を聞いてくれない家には帰りたくないと訴える」

母の役割

安全の基地



父の役割

ファシリテーター

愛着を不安定にするもの

① 両親の諍い 片親との別れ

② 子どもに対する過度の支配

母親や父親は気づかない・・・

「良かれと思って・・・子どものため・・・」

主体性を奪う 子どもの気持ちを汲み取れない

特に母親はあらゆる面で決定的な影響を子にもたらす

母親のタイプ

- ① 母親も不安定な愛着を抱えている場合
人との接し方や愛し方に偏りが生じる 不安定な関係
一方やりて（合理主義）の面も 不快さを処理できない
- ② 不安定な母親 （嵐は突然やってくる）
母親が自分の不安と戦っている場合
不安定な関係の中で子どもは
- ③ 主観的な考えに捕らわれている母親
大きな感情の波に翻弄される 見ている子どもは
- ④ 父親に隷属する
主体性のなさ 愚痴ばかり・聞かされる子供は

⑤ 友達のような母親

- ・ 母親の悩みを子どもに相談してしまう
- ・ 母親は子どもも自分と同じ考えと勘違い！
- ・ 子どもは物分かりのいい聞き手を演じ、母親が望む答えを模索する⇒内心は大混乱
- ・ 子どもが反発すると大混乱

⑥ 自己愛的な母親

- ・ 周囲からもてはやされる母親
- ・ 注文した子どもと違う！

子どもの不適切行動・・・治すべきは??

子病母治という漢方薬

母との生物学的な強いきずな

**子どもが自力で自分の課題を乗り越える
機会をつくってやる**

父親

風呂の時、僕と父は友になる

怒られた時、僕と父は上司と部下になる

そしてご飯の時、僕と父は家族になる

朝日新聞 天声人語 2019.1.30

中学2年生の詩

父親のタイプ

- ① 愛情深くて 強い父親
安定的・外交的
- ② 自己愛的な父親
自分勝手な父親 優れたものだけを愛する
アウトロー
- ③ 母性的な父親
社会的な成功は少ないが...安定型
- ④ 回避的な父親
対人関係の希薄さ 子どもや家族に関心が少ない

父の不在がもたらすもの

- ① 母への依存 心理的な融合
分離不安
- ② 誇大自己（仮想万能感） 自己コントロールの弱さ
NO! 社会のルール 厳しい現実
- ③ 強い不安 ストレス耐性の弱さ
現実の厳しさの象徴 ファシリテーター
- ④ 社会参加の滞り
 - ・ 他者との関係が結びにくい
 - ・ 学業や社会的な成功にも強く影響

子どもも中にある価値を引き出すために

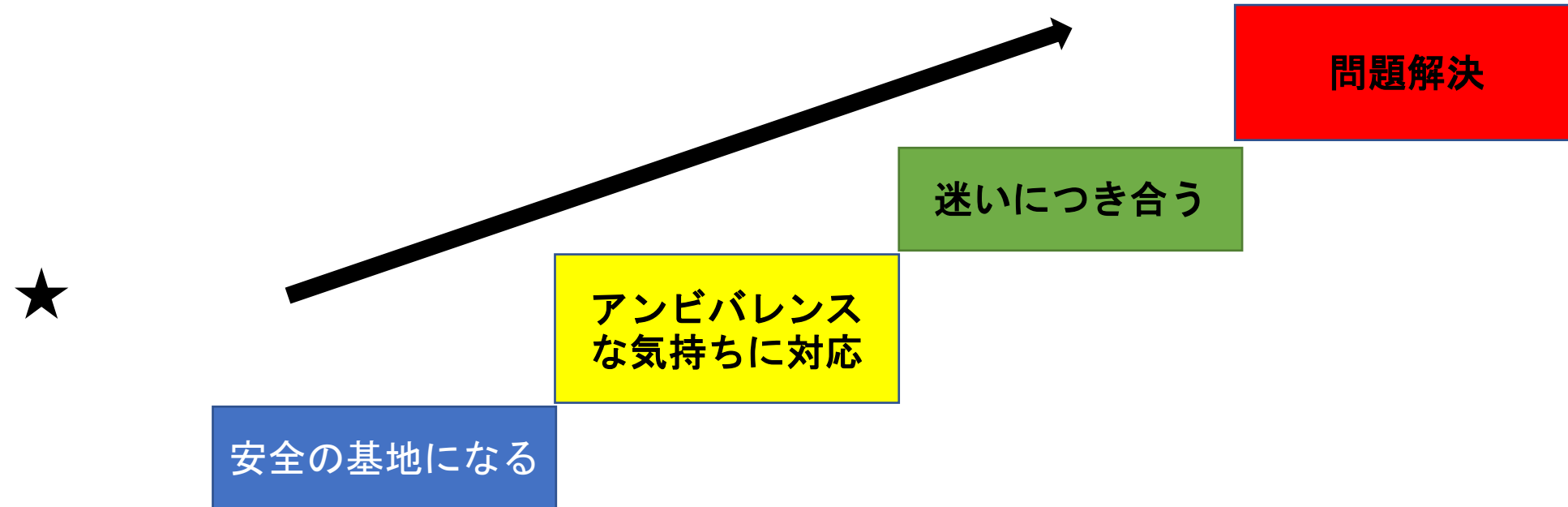
Educationの意味 (所説ありますが・・・)



あ	納得
い	同意
う	降参
え	驚愕
お	感嘆

子どもと話す際のステップ

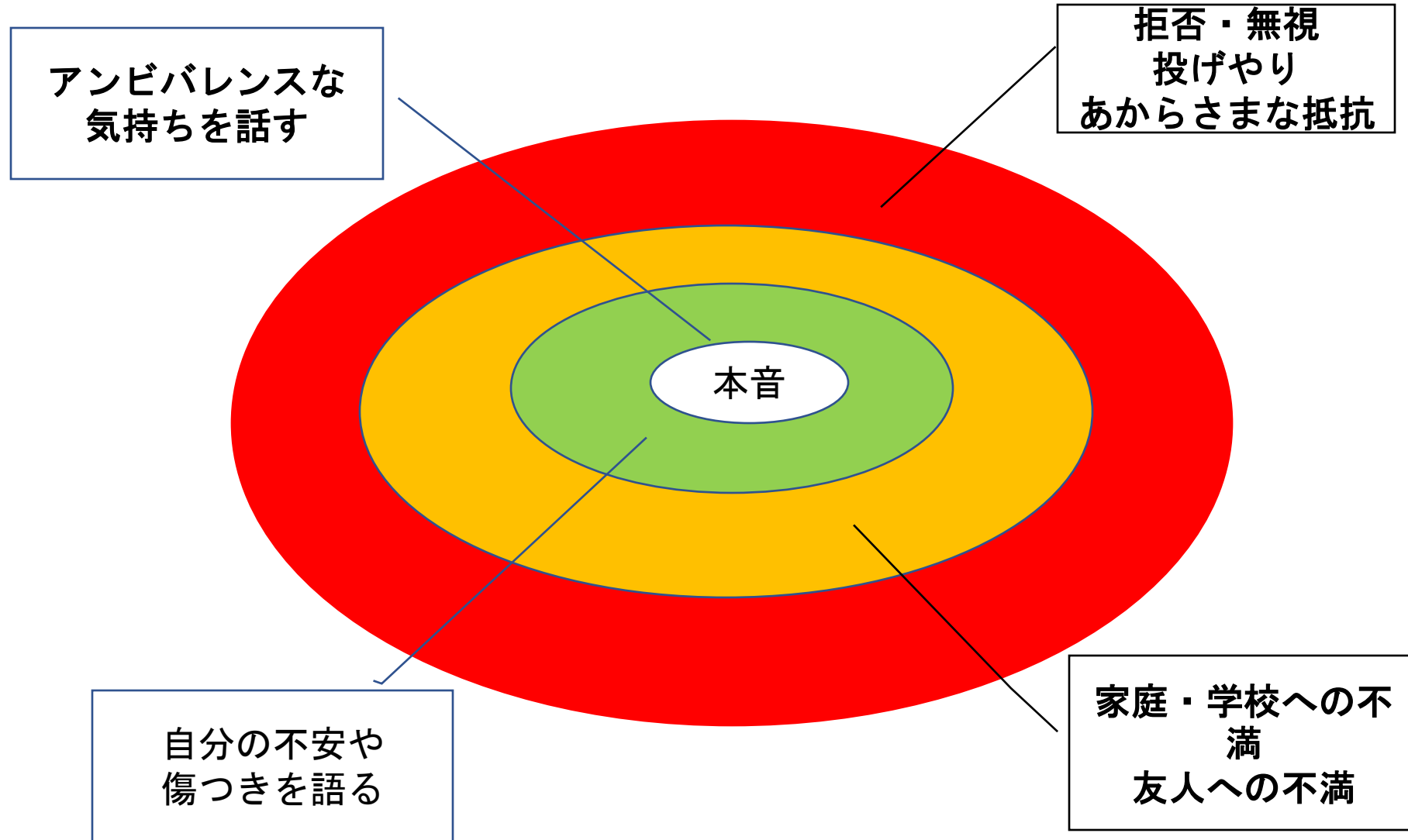
話し合いモデルを頭に描いて話し合いをする



子どもの状況に応じて対応する。

いきなり問題解決的な対応をすることは、相手の強い抵抗に合うことが多い。訓育的な対応は反感をかうことが多い。

問題行動をもつ子供の心の構造(仮)



子どもの心を動かす

- ①押し付けず、否定せず、まず受け止める
映し返す：リフレクティブトーク
- ②「～かな」「～ね」を使って話す
- ③オープンクエスションを多用する

話の聞き方トレーニング

うなずき⇒「要約」「質問」（「アドバイス」）

要約の多くはキーワードの映し返し

- ・ **あなたの話に関心があるよ**
- ・ **あなたの話をしっかりイメージして聞いているよ**

STEP1

うなずく練習

STEP2

要約・質問

聞くことが目的ではない⇒相手に話させてることが目的。

一般に「話すことで自分の心情や立ち位置を理解する」

聞き方を練習しましょう！

もも太郎 トレーニング

- むかし、むかしあるところに、おじいさんとおばあさんがいました。
- おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくにいきました。
- おばあさんがせんたくをしてると上流のほうから、大きなももが、ドングラコ、ドングラコと流れてくるではありませんか！
- おばあさんは、それをひろいあげて家までもって帰りました。
- おじいさんが帰ってきて、そのももを包丁できったところ、
- なんと！中から、玉のような男の子が飛び出してきたではありませんか！
- おじいさんとおばあさんは大喜び！ももから生まれたので「モモタロウ」と名前をつけて大切に育てました。
- やがてモモタロウがりっぱな青年になったとき、モモタロウはおじいさんおばあさんにこう言いました。

育たずじまいになりやすい環境 (主体的に課題を解決できなくなる)

【家族環境の変化】

我慢しなくていい

【遊びの環境が変化】

危険な遊びの除去

【安全基準が違う】

安全で快適な環境は、時に子どもの育ちに影響する場合もある

工夫しない。自分で困難を乗り越える工夫をしなくなる

【考える経験が違う】

生活面でも対人交流でも折り合いをつけることが減っている

いい加減に対応する効能

「白・黒をつけないと気が済まない！」という大人の態度が子ども
の成長をゆがめることもある(ゲームの世界感)

「ものは考えようで」と考えていくことが大切

- ・ 「まあ、いろいろあるからね！」
- ・ 「いろいろ大変なこともあるからね」
- ・ 「世の中思い通りにならないこともあるよ」
- ・ 「まあ、いいか！」

肯定的なフィードバックを心がける

「あいつのこと殴ってやりたい！」

- ① だめだよ人を殴っては！...×
- ② ママが学校に事情を聴きます！...×
- ③ そこまで腹がたっているんだね...△
- ④ 腹が立っているのに我慢してて偉いね...○

「僕はいじめられてるんだよ！」

- ① あんたが弱いからだよ！...×
- ② ママが学校に事情を聴きます！...△（担任と連携する○）
- ③ 辛いのによく頑張っているね...○

対人交流の問題解決にはVTR法をとりいれる

【VTR法】

- ・ 登場人物は？
- ・ いつ・どこで？
- ・ トラブルにいたった「やりやりとり」はスローモーションで
- ・ 演出家のように事態を把握する

その際「こうなった時に～すればよかったね」と適切な対応を提案することを忘れない。

「辛いをよく話してくれたね！」

子どもの変化を見逃さないようにする

食欲の変化 睡眠時間の変化 体重の増減 表情の変化

一日の活動リズム変化 会話量の変化 夜尿

夜叫 登校渋り

会話の内容（攻撃性高まる・不安を語る・幻視）

※スマホや携帯の履歴チェック

大人がコントロールできないものは与えない。

子どもの成長に欠かせない親の対応

親がモデル 家族を守る保護者の姿勢（言葉に出してみる 態度で示す）

(1) コミュニケーション力

- ① 筋道を立てて話すように導く
- ② こんな話し方だったら「相手はどう思うかな」と推測する力を養う
- ③ 「・・・、どうかな？」という聞き方 話し方

(2) 親の文化環境が子どもに大きく影響する

- ① 話し方
- ② パートナーや家族をいたわる話し方（対応）
- ③ モラル
- ④ 対人関係能力
- ⑤ 結果よりも努力したプロセスを賞賛

(3) 自ら学び問題を解決する

- ① 家族の中で、相談しながら解決する習慣をつける
- ② 調べて学ぶ習慣をつける
- ③ やってみて解決する習慣をつける（一度の失敗でくじけない）

子どもと接するときは 忘れずに

スマイル・ビーム

優しいまなざし

ラブラブ・ワード

温かい言葉かけ

ハグハグ アクション

何があっても大丈夫という態度いつも見方だよ！

愛語能く

廻天の力あることを

感謝や勇気づけの言葉は
天を動かすほどの力がある

(正法眼蔵)

学すべきなり

道元

M.ダイヤモンドのメッセージ

- ・ 自然は多様性を好み

社会は多様性を嫌う

Nature love s variety, but society hates variety.

十分な配慮をしながら、支援することが重要

多様な子どもたちを包み込む、

社会や学校一緒に創りましょう！